

## 2023 年度 第 1 回拡大職員会議「学童保育所の生活のなかでの安全」レポート

【クラブ】(あそびばクラブ)

【名 前】(島田歩実)

心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください(自由記述)。

今回の拡大職員会議に参加をさせて頂いて、一番良かったなと感じることは「子どもたちの安全を守る」という私たち指導員の大切な役割のひとつを、改めて再確認できたことです。この役割を毎日果たすためにはどうしたらいいのかをよく考え、気持ちがより引きしめる時間になりました。今回の会議の時間だけではなく、引き続き考え続けていかなければと思います。

グループワークでは、他のクラブの皆さんと協力をし危険を予測しました。様々な角度からの予測ができ、「なるほど」と思えばなしでした。どんな危険が予測されるのかという可能性をたくさん知ることができたことが収穫です。加えて「こういうケースもあるかもしれないということを想定して子どもたちを見守らなければならない」と仰っていたように、多くの目と角度から子どもたちを見守り、「こうなるかもしれない」と先を見据えて想像する力が必要だなと思います。少しでも生活の中に潜む危険を回避できるようにしていかなければいけないなと感じます。多くの目と角度といっても、大人の人数が多いと安心から、子どもたちを見る目の数や角度が多いようで実は少なく、狭くなってしまう場合もあると思います。そうならないように、まず私がどんな日も適度な緊張感を保ち続け、必要な場合は周りの指導員さん方にも「この子たちを見守るので、あちらの様子を見てきてもらってもいいですか?」というように声を掛けていきたいと思っています。

「ここで動かずに座っていて。が安全かもしれないけど、子どもたちの楽しい放課後の生活においてどうなの…?注意ばかりが飛び交うのもどうなの…?」というお言葉。保育中このように自問自答してしまうことがよくあります。最近特に難しいなと感じることは、男の子たちの力の加減です。本人たちはじゃれ合い?をしているつもりでニコニコ楽しそうなのだけれど、背中に上からのったり、ふざけてたたき合いをしたり、プロレスごっこだと言って戦いを始めたり。見ている私からすると、「ああ、2人も3人もものったら息ができなくなりそう」とか「プロレスごっこでとっくみ合っているけど吹っ飛ばされて頭打ちそう」とかヒヤヒヤしてしまい、いつも「危ないからおしまい」と早々に言います。「危ないから止めるべきだったよな」「でも、なんでもかんでも大人がおしまい、ってしていると子どもたち楽しいの…?」と自問自答してしまう時があります。「今のさ、やりすぎて気付いた?」ときいてもいまいちぴんと来ていないような顔をするのも、悩みます。どうやったら加減をしながら、楽しくあそぶことができるのか…?それを大人の注意だけではなく、いつかは自分たちで判断できるように導いていくにはどうしたらいいのか…?悩んでいます。今具体的に実践している方法は、「それをしてらどうなってしまうのかをできるだけ分かりやすく伝えること」です。「危ないからやめて、おしまい」だと、「危なくないし。別に大丈夫だし」と返ってくる場合があります。何が危ないのか?このままだとどう危ないのか?が少しでもぴんと来ることで、自分たちでストップをかけやすくなるといいな

と思っています。「本棚の上に座ったら危ないよ降りて。木や釘がお尻に刺さるかもしれないよ。あゆみも小学校の時に本棚にのってあそんじゃったことがあって足に木が刺さったよ、めっちゃ痛かったよ」、「玄関では靴はいてあそんでよ。裸足でボール蹴ろうとした〇〇君がアスファルトで足すって血だらけだったよ」、「ふざけすぎておやつ食べないよ。あゆみも昔笑いながらご飯食べてたらちくわが変なところに入っちゃって息ができなくなっちゃったよ」とか。どうなってしまうのか、体験談もいれてできるだけ子どもたちが想像しやすいようにということを意識して声を掛けることを今は試しています。ただ危ないよと何度も口酸っぱく言うより、すぐにストップをかけてくれる子が多いように感じています。もちろん、そんなことを言っている時間がない程危ないと判断した場合は、強制的に止めます。

以前、ある子が足を数針縫うケガをしてしまった時、それは本当に一瞬の出来事でした。小部屋の取り合いになり「あ、ケンカが始まった」と思った瞬間、もうその瞬間には思いっきりガラス戸を蹴り、ガラスが割れ足が切れてしまいました。お昼ご飯のごちそうさまからわずか 10 秒程の出来事でした。いつ何が起きるか分からないということを改めて実感した出来事でした。危険から子どもたちを守ること、子どもたち自身が危険を回避できるようにすること。予防もちろん大切ですが加えて、もし何か起きてしまった時にどう対応するのかを頭に入れておく、シミュレーションをしておくことの大切さもすごく実感しました。そのために、「安全対策・危機管理の指針&点検リスト」を熟読します。そして、新しいものに更新、共有することにも取り組んでいけるようにします。

※提出されたレポートは、当会のホームページや広報誌に掲載する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※×切は、12月3日（日）です。常勤専任指導員に手渡し、または、okazkaigakudou@yahoo.co.jp までお送りください。